

【小学生用】

- 1 題材名 作品並べゲーム
- 2 題材のねらい 作品カードの共通点を探る行為を通じて作品を見ることを楽しむ。
また、自分の感じたことを話したり、友達の感じたことを聞いたりすることによって、形や色、イメージを共有することを楽しむ。
- 3 指導目標 ・自分の感じたことを言葉にして、ゲームに参加しようとする。 [関心・意欲・態度]
・作品のよさや美しさを感じ取り、形や色、イメージで具体的に表すことができる。
[鑑賞の能力]
- 4 指導計画 (1時間計画・45分計画)

	学 習 活 動	留 意 点
導 入 5 分	ゲームの説明 ・親を決め、親が3枚～5枚カードを配る。 ・1枚真ん中に置き、親からつながりを考えて、カードを置いていく。残りは、山札とし、親のそばに置いておく。	・形や色、イメージに注目させて、カードを置くようにする。 ・一度使ったキーワードは、使えない。 ・パスができる。手持ちのカードが置けない場合は、山札の中から取り替えることができる。
展 開 3 0 分	ゲームを行う(4～6人) 早く終わってしまった班はさらに、2枚追加するなどして終わりを調整する。	・男女混合グループの方が意見に偏りが少ない ・6人以上のグループは待つ時間が長いので活動が活発になりにくい。
ま と め 1 5 分	感想用紙の記入 「ゲームの感想」 ・このゲームを通して気付いたことは何か。 「どの作品が好きか」 ・作品番号、主題と好きだと思った理由を記入	・このゲームがどんな感じだったので楽しかったのか、どんな絵だから好きだと感じたのか、自己分析をしながら感想を記入させる。

実践について気が付いたことなど(小学生の場合)

- ・裸婦の扱い方について児童が騒ぐのではないかと思い、はじめからカードを抜いて行った。実践した他の先生から、入れても特に問題はなかったという報告もあり、気にしすぎなのかも思う。学芸員の方から、「すばらしい作品なので裸婦が描かれているカードも子どもたちに味わわせて欲しい。」とのご助言もあり、今は、児童の実態を見ながら入れるか入れないか判断しようと思っている。
- ・例えば、子どもたちに「共通点を見つけよう」と指示すると、「どちらのカードにも海があります」と、そこに描いてあるものに最初に目がいきがちで、やがて抽象的な作品カードで行き詰まってしまう。そこで、教師から「形や色にも注目してみよう」などといった〔共通事項〕を切り口にしたアドバイスが必要になる。また、描かれているものから「寂しい感じがする」などの自分のイメージを言葉にした場合は、「どこからそんな感じがしたの?」と具体的に作品のどこの部分からを示させて、周りの子どもたち「納得」してもらいたい。